



第9号（平成29年9月6日発行）伊丹市立松崎中学校長 升井竜雄

【 全国学力(国語・数学)調査結果 】

3年生対象に平成29年4月18日に実施されました全国学力・学習状況調査のうち、「学力調査」の結果概要をお知らせします。

基本的な知識に関するA問題、活用(応用)に関するB問題の2種類を実施しました。なお、この調査で計れる学力は、特定の一部であって、学力の全てを表すものではありません。

3年生には学級で個票を渡す予定です。設問ごとの正解不正解、問題の内容等が詳しく記載されていますので、点数のみに振り回されることなく、どこでどうつまづいたか、しっかり振り返って見直してください。

※ 全国平均値（国語A77.4 国語B72.2 数学A64.6 数学B48.1）

1. 各教科の結果について

各教科の結果は以下のとおりです。なお、平均正答率の比較については、統計的に有意差があるかどうかの検証はできていません。数値の比較のみを取り上げています。

【国語A】

全国平均を0.4ポイント下回っていました。度数分布表（正答数0問～正答数32問それぞれに、何人いるかを表した表）で見ると、32問中、正答数26、28問の生徒が最も多い(全国29問)ものの、全体として緩やかな「ふたこぼ型」となっており、個々の理解度に応じた授業展開が必要です。

漢字や言葉の意味に関する基礎的な内容について、反復学習などで知識の定着を徹底することが大切です。

正答率が低かった設問は、「楷書と行書の違いを説明する（選択式・言語知識）」が24.5%（全国49.%）、「話し合いの記録として適切な言葉を考える（短答式・言語知識）」が36.5%（全国35.8%）でした。

【国語B】

全国平均を1.2ポイント下回っていました。9問中、正答数8問の生徒が最も多く(全国8問)、記述式問題の正答率が低い結果でした。正答率が低かった設問は、「比喩を用いた表現に着目し感じたことや考えたことを書く（記述式）」が42.2%（全国41.4%）で、この設問は無解答率も一番高く、10.9%（全国14.3%）でした。次に正答率が低かった設問が「スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す」が55.7%（全国57.6%）でした。

国語のまとめとしては、伝統的な文学作品に触れることや、多様な語句の意味を地道に習得すること、そして、筋道立てて話し合ったり伝え合ったりする活動を学習に取り入れることが大切です。また、読んだり聞いたりして情報収集した内容について、自分の考えをまとめ、論理的に整理して書く学習が必要です。

【数学A】

全国平均を0.4ポイント上回っていました。度数分布表（正答数0問～正答数36問それぞれに、何人いるかを表した表）で見ると、比較的なだらかなお皿を伏せた型となっており、様々な理解度の生徒が広く分布している状況

です。領域別の正答率では「数と式」「図形」「関数」は全国平均を上回っていますが、「資料の活用」に課題があります。

正答率が低かった設問は「反復横跳びの記録の範囲を求める（範囲の意味を理解している）」19.7%（全国28.6%）。「6月1日から30日までの記録を表した度数分布表からある階級の相対度数を求める」が29.5%（全国45.5%）。「半径が5cm中心角が120°の扇形の弧の長さを求める（扇形の弧の長さを求める）」が32.6%（全国30.7%）、「反比例の表から比例定数を求める」が、38.3%（全国34.4%）でした。

【数学B】

全国平均を1.1ポイント下回っていました。15問中、正答数6問の生徒が最も多く、成績中位から下位層がやや多い結果でした。

正答率が低かった設問は「『420分未満より420分以上の女子の方が合計点が高い傾向にある』と主張できる理由をグラフの特徴をもとに説明する。」9.8%（全国17.6%）で無解答率が26.4%（全国31.2%）でした。次に正答率の低かった設問は「六角形をn個作るのに必要なストローの本数を $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する。」12.4%（全国14.5%）で、「四角形ABCDの模様が1回の回転移動によって四角形BEFGと重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する。」13.0%（全国14.0%）でした。

数学のまとめとして、グラフや表等の資料からその意味や特徴を考察すること、そして、数値を関連づけて説明したり、理由を述べることに課題がありました。

自分自身が本当に納得して理解できているか、学習する度に復習し確認することや、自分が理解したことを他者に説明する学習が大切です。今後、入試に向けて、計算問題を繰り返し解いて計算力を定着させ、資料から考察する文章題など思考力を必要とする問題を数多く解くことが必要です。

2. 今後の方策

上記のような状況をふまえて以下のことを実施します。

<学校>

- ① 授業開始時と終了時にその時間の「ねらい」と「まとめ」を明確に表示し、授業最初の見通しと、授業後の振り返りを徹底させる。
- ② ペア・グループ学習を活用した、話し合いによる深める学習。
- ③ 教師がこだわりを持った工夫（手立て）を取り入れた授業を実施する。
- ④ 自分の言葉で説明したり、伝え合って学習する場面を設定をする。
- ⑤ 部活動・学校行事で達成感、充実感を実感させ自尊感情を高める。
- ⑥ テスト前の学習会を充実させる。

<家庭では次の点をご留意ください>

- ① 家庭学習の徹底（学習習慣の定着、宿題、提出物のチェックなど）
- ② テレビ視聴時間、スマートフォン、携帯やゲーム等の時間制限（家族の協力による学習習慣づくり）
※フィルタリングなどのアクセス制限、使用時間等のルール
- ③ 早寝・早起き・朝ご飯・家族相互の日常のあいさつ
- ④ 良いところ、努力しているところを認めしっかり伝える。

※ 小学生の弟、妹さんがいる家庭では、中学生の兄姉と同様に、学習習慣、基本的な生活習慣の定着に向けた家庭での躾(しつけ)をお願いいたします。



松崎中だより

第10号（平成29年9月6日発行）伊丹市立松崎中学校長 升井竜雄

【全国学習状況(生活状況)調査】

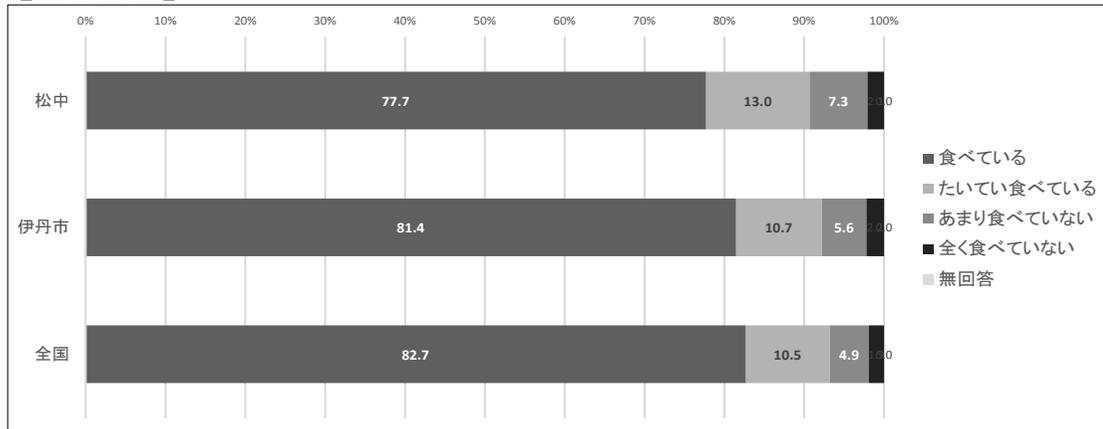
第9号に引き続いて、全国学力・学習状況調査のうち「学習状況調査」の結果についてお知らせします。

国語、数学の「学力調査」の後に、「学習状況調査」として、生活や学習状況に関する質問紙調査を実施しました。質問項目は94問ありましたが、その中から数項目を抽出して、結果をお知らせいたします。

【朝食】

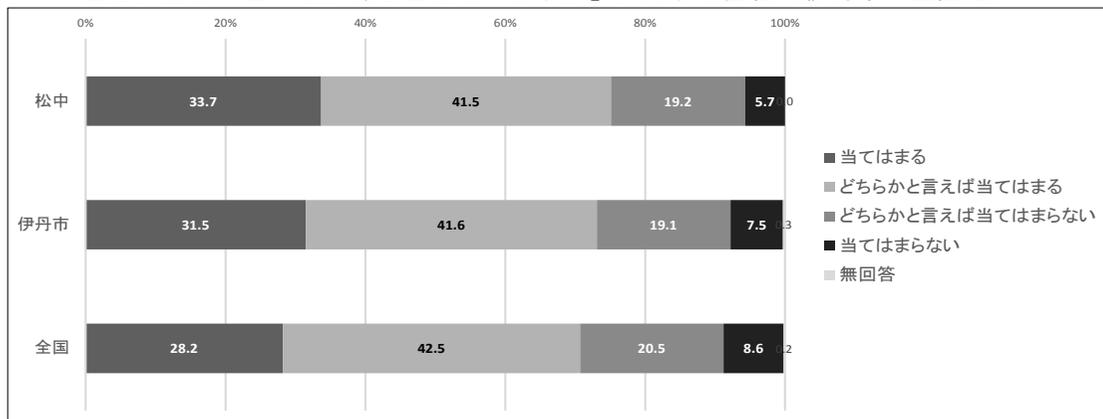
朝食を「毎日食べている」生徒は77.3%、「たいてい食べている」生徒は、13.0%でした。「あまり食べていない」「全く食べていない」生徒が9.4%で、全国(6.8%)より多い状況です。「早寝、早起き、朝ごはん」の徹底をご家庭でもさらにお願ひします。

【自尊感情】



自分には「よいところがある」と思う生徒は33.7%、「どちらかといえばそう思う」が41.5%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」生徒が24.9%おります。学校や家庭で一人一人の個性や良いところを認めて、積極的に言葉かけをしていくことが大切です。また、行事、部活動に積極的に取り組み、達成感、充実感を味わうことによって、自信をつけることができるようにしたいと考えています。

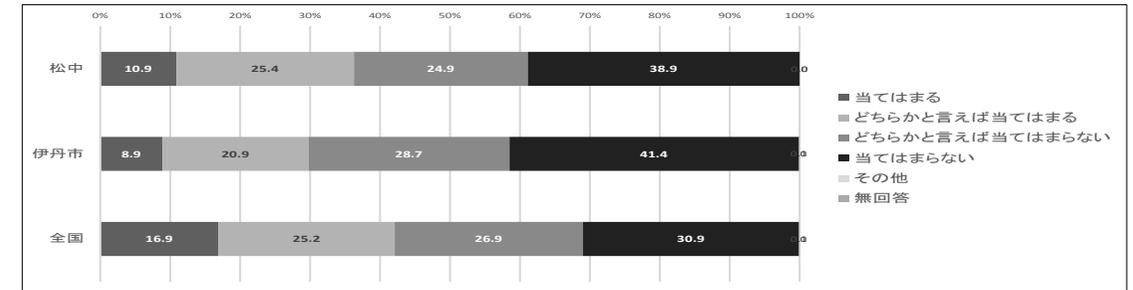
* 「自分にはよいところがあるとおもいますか」に対する回答（伊丹市・全国比）



【地域との関係】

地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」生徒が36.3%（全国42.1%）でした。松中では今年度から「松中地域ボランティアサポーター制度」がスタートしました。この夏休みも100名を超える松中生が地域行事にボランティアとして参加しましたので、今後この調査結果は向上するのではないかと期待しています。

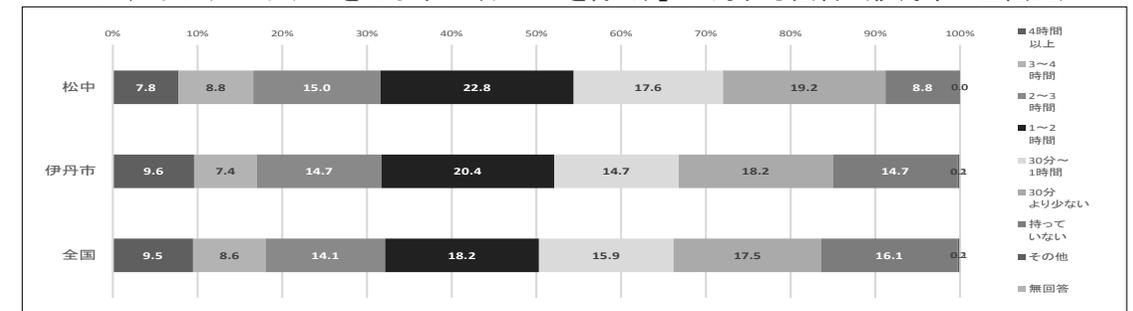
* 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する回答（伊丹市・全国比）



【携帯電話・スマートフォン】

携帯電話やスマートフォンを持っている生徒が91.2%（全国83.9%）で、ほとんどの生徒が持っている状況です。1日2時間以上、通話やメール、インターネットをしている生徒が31.6%で、インターネットやSNSの使用について自分でブレーキをかけたりコントロールすることができにくくなっている人もいます。これは昼夜逆転や生活リズムの崩れの原因となり、家庭学習に悪影響を及ぼしかねません。また、近年SNSやメールなどでのいじめ、トラブルが散見されます。使用上のモラルやルールを決めて大人がしっかりと見守る必要があります。

* 「普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームを除く)」に対する回答（伊丹市・全国比）



【学校生活】

「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒は54.9%、「どちらかといえばそう思う」が26.9%、併せて、81.8%（全国80.9%）でした。一方、「そう思わない」と解答した生徒が7.8%（全国6.9%）いました。部活動や行事で、個々に役割を持たせることで、充実感、自己有用感を実感させることが大切だと考えています。また、生徒が学習に興味、意欲がもてるよう、わかりやすく楽しい授業をめざして、授業の改善に取り組んで参ります。

